

獣がい対策の多様な担い手研修会に参加して

降矢大智・藤林尚也・尾形美月・桐山茉夕・松浦稔樹・奥村力也
(兵庫県立篠山鳳鳴高校 自然科学部)

はじめに

私たちは2018年、篠山市で実施された「獣がい対策多様な担い手研修会」に参加し、そこで調べたことを2018年12月13日・14日に篠山市民センターで開催された「第1回獣がいフォーラム」で発表した。その研修内容を報告する。

I. 「獣がい対策多様な担い手研修会」とは

農村・山村の過疎化によって手入れされない農耕地や里山が広がり、それに伴ってシカやサルなどの野生動物がヒトの生活圏と接して暮らすようになり、いわゆる獣害が問題となっている。それに対して野生動物を「害」と感じず、住民にとってプラスの存在に変えていく対策(獣がい対策)を模索するのが、この研修会の目的である。この研修会には都市の住民や高校生など幅広い立場の人が参加した。

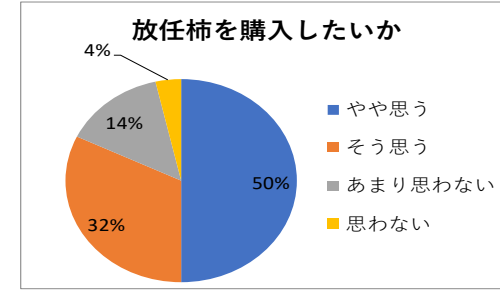
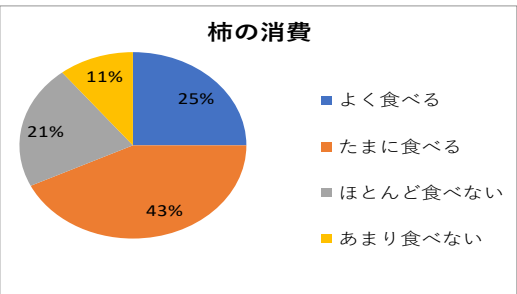
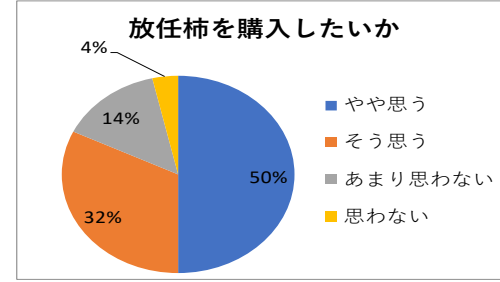
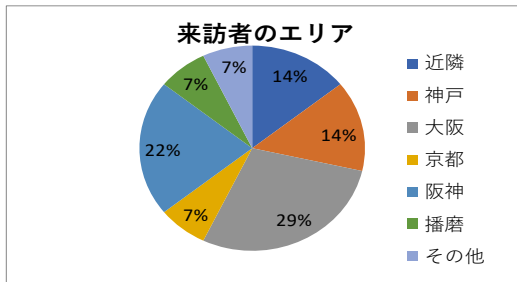
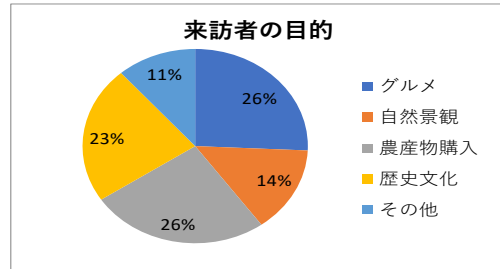
II. 研修内容

1. 6月30日キックオフセミナー
 - ・講演「獣がい対策で地域の活力を向上させる」
兵庫県立大学山端直人先生より
 - ・フィールドワーク実習
福住地区の獣がい状況を視察、自動カメラを設置
2. 8月5日
 - ・獣がい対策実践報告
神戸大学 清野美恵子先生より
 - ・自動観察カメラの映像を確認
 - ・グループワーク：放任果樹対策を考える
3. 9月23日
 - ・獣がい対策実践報告
NPO法人さともん 鈴木克哉先生より
 - ・グループワーク：放任柿の分布調査
4. 10月28日
 - ・獣がい対策実践報告
長野県立下伊那高校小池真理子先生より
 - ・グループワーク：高校生の参加を考える
(柿を使ったスイーツなど)
 - ・観光客への獣がい意識調査・柿の木分布調査
5. 11月10日
 - ・グループワーク：発表準備
6. 12月13, 14日
 - ・獣がいフォーラム当日：発表本番
篠山の高校生と長野県立下伊那高校生の発表
地域住民や県外の人とともに、獣がいについて考える



Ⅲ. 獣がいアンケート調査について

10月28日に城下町の観光客を対象として、獣がい対策としての柿活用のためのアンケートを実施した。以下はその結果である。アンケートに答えていただいた方々は、都会の方が多かったにもかかわらず、獣がいについてある程度の理解があることがわかった。



Ⅳ. 柿の木分布調査

10月28日に、市内東部の福住地区の一部で、集落にどのように柿の木が分布しているかを調査した。右図がその結果である。この集落では2haの面積に35本の柿が植わっていた。渋柿が多いと予想していたが、結果は甘柿35本、渋柿14本であった。表中の利用可は持ち主が分かっており、利用の許可が得られているもの、利用不可は持ち主が不明であったり、利用の許可が得られていないものである。放置されている柿が多く、サルなどの野生動物を呼び寄せることがわかった。



Ⅴ. 第1回獣がいフォーラムでの発表

野生動物を呼び寄せる原因となる放置された柿の具体的な活用方法を考え、それを発表した。柿を消費することが獣がいを減らすことにつながると考え、柿を主体とした篠山の様々な果物をロールアイスという新しい形で有効活用する「篠山丸ごとロールアイス」、「UBER EATS」という配達方法を使って柿を配達する「Kakii Deli」などのアイデアを発表した。

Ⅵ. この活動全般についての感想

今回の活動を通して、獣害の深刻さを知った。その対策として単に野生動物を駆除するだけではなく、人と共存できるような取り組みや、さらに進んでそこから人と野生動物双方にとって Win-Win となるような関係を構築することが、持続可能な取り組みになることに気がついた。これからもあきらめず、知恵を出し合って獣がいをプラスにするようなアイデアを考えたい。